

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3970900126		
法人名	社会福祉法人 愛生福祉会		
事業所名	グループホームえやんばい		
所在地	高知県宿毛市平田町戸内1822-2		
自己評価作成日	平成25年9月12日	評価結果 市町村受理日	平成25年12月13日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

同じ敷地内に協力病院があり、24時間体制での医療との連携が取れており、急変時や急病時即座の対応ができています。病院が近い事により、ご利用者さま、ご家族の方より『安心できる』と言っていただいています。年に1度の納涼祭は盛大で、地域の恒例のイベントとして多くの方が来て下さり、地域に根付いている。実習生の受け入れや市内の中学生の福祉体験の場として若者達が福祉へ関心を持って、地域での高齢者と助け合えるよう動機付けに努めています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaizokensaku.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3970900126-00&amp;PrefCd=39&amp;VersionCd=022">http://www.kaizokensaku.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3970900126-00&amp;PrefCd=39&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成25年10月28日

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、地域貢献や利用者一人ひとりの時間を大切にするという、法人及び事業所の理念に基づき、年度毎に運営方針・実現方を職員と共に作成してケアに取り組んでいる。毎月の職員会では一人ひとりの利用者についての気づきを出し合い介護計画に反映するとともに、行事や研修にも理念に沿った企画をして取り組んでいる。研修は、事業所内、母体法人、外部等、いずれの研修にも参加できる体制を整えている。職員は研修によって、新たな知識の習得や実践していることを確認し自信につなげている。また、日々の介護では利用者主体ということを大切にし、全職員が連携良くサポートし合い、チームとなって取り組むことで、事業所にゆったりとした暖かい雰囲気を作り出している。居間兼食堂等の共用空間は手入れが行き届き、利用者にとって長年慣れ親しんだ空間となっており、利用者の居室は、使い慣れた家具や、置時計、テレビ、仏壇、造花、家族写真等多くの物が持ち込まれ、今までの暮らしを延長した雰囲気をつくっている。理念である利用者一人ひとりの時間を大切にしながら年数を重ねている事業所である。

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名:もんちきち

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<b>○理念の共有と実践</b> 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会の時等に、理念について話し合い、具体的なケアについて統一できるようにしている。理念をプランに反映できるよう努めている。	事業所の理念に基づき、年度毎の運営方針等を職員と共に作成している。利用者一人ひとりの時間を大切に利用者に適したケアを提供するという理念から、毎月の職員会で各利用者への気づきを話し合い、介護計画、行事、研修等に反映するよう取り組んでいる。	
2	(2)	<b>○事業所と地域とのつきあい</b> 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の小学校の運動会を見に行ったり、市内の中学生が福祉体験に来てくれたりしている。納涼祭は、地域全体で盛り上げてくれ、地域のお祭りとして定着している。	目標達成計画に基づき、小学校の運動会や地域のミニデイサービス、量販店での買い物等に利用者と一緒に出かけ、交流を図っている。また、中学生の福祉体験学習や看護・介護の実習生を受け入れ、事業所の行事にボランティアとして参加してもらう等交流している。	
3		<b>○事業所の力を活かした地域貢献</b> 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材育成として、積極的にボランティアを受け入れ、中学生、福祉専門学生、看護専門学生の実習の受け入れもしている。利用者へのプライバシーについても配慮している。		
4	(3)	<b>○運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会にて、サービス評価の結果を報告し意見を聞き、改善点等相談しながらサービスの向上に努めている。	運営推進会議では事業所からの運営状況や自己評価結果等の報告に対し、参加者から質問や意見が出され双方向的な会議になっている。会議録は、各家族に配付し周知されているが、会議録では前回の会議で取り上げた内容のその後の経過の記載が少ない。	議題を設定して話し合いを深めたり、会議で取り上げられた内容の経過を分かりやすく記録すること等により、メンバーが更に積極的に会議へ関わりを持てるような工夫を期待したい。
5	(4)	<b>○市町村との連携</b> 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者の方との関係は良好で、相談に乗ってもらったり、アドバイスを受けたり協力してもらっている。市の担当者の方が行事(運動会)の応援に来てくれたりしている。	運営推進会議や介護保険認定調査時には、事業所の実情やケアサービスの取り組み等を伝えている。また、介護保険や福祉担当者とは、適宜、運営に関する制度上の相談ができる関係が築かれている。	
6	(5)	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会がある。身体拘束禁止の対象となる行為について定期的に職員会で話し合い、身体拘束をしないケアに努めている。	身体拘束や虐待防止の研修を、できるだけ多くの職員が受講するようにし、研修では言葉のみでなく全介助の必要な人を座らせたままにしない等、きめ細かな具体例を学び、全職員に認識が行き渡ってきている。外出傾向のある利用者には、気分を変えたり、一緒に同行する等身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加したり、職員会で定期的に勉強している。高齢者虐待防止法について事例を挙げながら理解や防止について話し合っている。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内で研修会を行い学ぶ機会を持っている。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をとり丁寧に説明している。利用料金、起こりうるリスク、医療連携体制の実際などを説明している。入院の際、一度退居となった場合でも最優先に入居できることの説明をし安心してもらえるよう配慮している。		
10	(6)	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時等何でも言ってもらえるよう、職員の方から近況報告をしたり話しやすい環境を作るよう努めている。家族からの意見等はユニット会で話し合い、反映に努めている。家族会での意見や要望を取り入れたケアに努めている。	日々の利用者の希望や気持ちを把握してチームケアに活かすとともに、家族からは面会時や家族会を通して意見を聞いている。出された意見等には書面で回答し、運営に反映させている。また、事業所便りには外部の相談窓口を常に掲載している。	
11	(7)	<b>○運営に関する職員意見の反映</b> 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の時又は個別に一人一人が自分の意見を言えるような雰囲気作りを努めている。職員全員、活発に意見が言える。職員一人一人と管理者が話をする機会を設けている。	職員の意見や提案は毎月の職員会のほか、随時間聞いている。特に、業務分担については、利用者に関わる時間を確保する観点から、状況に応じて意見が出され、協議して改善につなげている。人事に関する相談もあり、利用者の視点に立って話し合っている。	
12		<b>○就業環境の整備</b> 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修に参加する機会を設け向上心をもって働けるよう努めている、希望を聞き、休みやすい環境を作ったりと配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<b>○職員を育てる取り組み</b> 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修、グループホーム内研修をしている。外部研修にも順番で参加できるよう配慮している。		
14		<b>○同業者との交流を通じた向上</b> 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内に連絡会があり、検討会を開き、サービスの向上に努めている。グループホーム協会の研修にも参加し悩み等を話し合う機会もある。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<b>○初期に築く本人との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用開始時に本人から思いや希望を聞いたり、サービス開始前に見学に来てもらったりと関係作りに努めている。		
16		<b>○初期に築く家族等との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前のご家族より相談や要望を聞き、事業所としての対応等を説明し、安心してサービス利用ができるよう努めている。		
17		<b>○初期対応の見極めと支援</b> サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の相談を受けた時、空室がなく即座に対応が困難な場合は、他のサービス利用を提案したり、居宅介護支援事業所との連携を取っている。		
18		<b>○本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する側、される側という意識を持たず、お互い支え合いながら生活していることを職員会でも話し、職員全員共通の認識としている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ふるさと訪問をしたり、面会時、家族の方と過ごせる時間を大切にしている。近況報告も定期的に行ったりし、面会が少ないご家族にも情報の提供をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お墓参りや地域のミニデイサービスに参加したり、ふるさと訪問をしたり、出来る限りの支援を行っている。	入居時や入居後に把握した利用者の馴染みの人や場所の情報に基づき、ふる里訪問、生まれ育った家や神社へのドライブ、墓参り、馴染みの理美容院の利用等に家族の協力も得ながら取り組み、関係継続の支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関わりも多いがトラブルも多い。職員が中を取り持ちながら、お互い支え合った生活が出来ている。それぞれうまのあった方と楽しく過ごす事ができるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなった方の家族が度々訪問してくれたり、退居された方のご家族の方と出会った時などに声をかけたりと付き合いが続いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で真意を知る努力をし、家族やその方との関わりがあった方からの情報を得て個人対応している。	利用者や家族に意向を聞いたり、表情や仕草等から思いを汲み取ることに努め、その内容は毎月のユニット会で話し合って会議録に記録し、共有している。また、一人ひとりの思いに沿った自然な一日の過ごし方ができるよう取り組んでいる。	毎月のスタッフ会で情報交換している内容を含め、さらにセンター方式の「私の姿と気持ちシート」を活用し、シートの内容に沿って本人のありのままの姿と気持ちの理解を深める取り組みを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	故郷訪問で情報を得たり、家族、親戚、近所の方などの面会時に、情報を得よう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		<b>○暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人の生活リズムを理解するよう努めている。些細な動作等から感じ取り対応できるよう努めている。		
26	(10)	<b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族の方の希望や本人の生きがいにしていく事等を考慮し、モニタリングし介護計画を立てている。	家族には面会時に生活状況を報告して意向を聞くように努め、医療等他職種の情報も得て、穏やかな暮らしの実現や現在できていることが維持されるような介護計画を作成している。毎月の評価を記録してユニット会で話し合い、計画の定期的な見直しを6カ月毎に行い、状態に変化があれば随時見直している。	
27		<b>○個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の状況の変化や対応等を個人ケースに記録し、申し送りノートや業務日誌にて職員間での情報の共有ができています。		
28		<b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b> 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、ご家族の状況に応じて希望を聞き、個々のニーズに対して柔軟に対応している。		
29		<b>○地域資源との協働</b> 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営委員会に地区長さんや民生委員さんが参加してくれている。徘徊の方が行方不明になったことを想定して話し合いをしたり、警察、市役所の協力によりSOSネットワークにも登録している。		
30	(11)	<b>○かかりつけ医の受診支援</b> 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院が近い事で入居を希望している方が多い為、医療機関を勧めているわけではないが、協力病院がかかりつけ医になっている、希望する病院に通院できるよう送迎介助している。	利用者や家族の希望する医療機関への受診支援を行っている。協力医療機関の訪問診療を希望する利用者には職員が対応し、他院については家族が同行して送迎を職員が支援している。いずれの場合も、家族や職員で情報を共有しながら適切な医療が受けられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>○看護職との協働</b> 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置しており、常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。訪問看護、協力病院の看護師の協力を得ながら適切な診療を受けている。		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	骨折で入院した方がいたが、情報の提供ができ、早期に退院できるよう働きかけたり、関係作りに努めた。		
33	(12)	<b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の指針を作成し、同意をとっている。ご本人や家族の意向を踏まえ、医師、職員が連携をとりながら安心して納得した最期が迎えられるように、随時ご家族と話し合いながら取り組んでいる。	契約時に重度化等の対応指針に沿って説明し、同意を得ている。重度化した場合には、医師から家族に状況を説明し、看取りの意向を再確認している。その後は段階的に方針を共有しながら、チームで支援に取り組んでいる。職員には、内部研修を実施するとともに、精神的なサポートにも努めている。	
34		<b>○急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に緊急時対応の訓練を行っている。消防署の協力を得て、蘇生術の研修を全職員が受けている。		
35	(13)	<b>○災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、消防の協力を得て、火災、地震避難訓練を実施している。運営委員会でも災害時の協力を呼びかけ、地区長さんに訓練に参加してもらっている。近隣の施設との連携体制も整っており、合同の訓練も実施している。地区の消防団が水害時いち早く駆けつけてくれる。	自主訓練は、火災、地震を想定し、消防や地域住民、敷地内の母体法人の協力を得て行っている。避難場所は、隣接するケアハウスとなっており、事業所の2階にはケアハウスへの渡り廊下が設置されている。消火器等の設備点検を定期的に行い、備蓄は7日分準備している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	<b>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</b> 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人前であからさまにトイレの声掛け等をしないように気を付けているが、利用者によっては言葉に出して誘わなければ伝わらない場合もあり、できるだけ配慮に努めている。排せつ介助時は必ず、カーテンと入口の戸を閉めるよう徹底している。	羞恥心を伴う介護場面では、他者に見聞きされないよう配慮している。個人情報、事業所外においても口にしないことを周知徹底している。また、利用者のその人らしい暮らし方を尊重するよう、チーム一丸となって取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		<b>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</b> 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	朝食は、パンと米飯の希望を聞き選択してもらっている。水分補給の飲み物の希望を聞いたり、食べたいお菓子を選んでもらっている。聞きたい音楽をかけたりと配慮している。		
38		<b>○日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や食事等その日の気分により、本人のペースや時間を大切にしよう努めている。		
39		<b>○身だしなみやおしゃれの支援</b> その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問の理容室を利用しているが、好みのヘアスタイルの希望を聞きカットしたり、帽子や衣類にも、その人らしさを保てるよう努めている。		
40	(15)	<b>○食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に食卓を囲み会話しながら食事をしている。日々の食事の準備への参加はできていないが、芋のつるや山菜の下ごしらえ等を一緒にしている。	献立は法人の栄養士が作成し、利用者の希望や旬の食材を取り入れ適宜アレンジしている。咀嚼や嚥下困難な利用者には、トロミや刻み、ミキサーの使用等により食べやすい形に工夫している。下ごしらえや後片付け等を利用者と一緒に行い、楽しい食事につなげている。	
41		<b>○栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の体調と1日の摂取量の把握をしている。ご本人の好きな食べ物や食べやすいものを出すよう、何段階もの食事形態をとっている。		
42		<b>○口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人に合わせた道具やリステリンを使用したりしている。		
43	(16)	<b>○排泄の自立支援</b> 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、尿意のない利用者さんにも時間を見計らって誘導することでトイレでの排泄の維持に努めている。	排泄間隔や排泄のサインをチームで共有し、日中はできるだけ布のパンツで過ごせるように、トイレでの排泄を支援している。入居後、紙おむつから紙パンツに、次いで布パンツと尿取りパッドに変更できた事例があり、家族にも喜ばれている。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		<b>○便秘の予防と対応</b> 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給はゼリーにし摂取しやすい工夫したり、牛乳やきなこミルクを出したりと取り組んでいる。		
45	(17)	<b>○入浴を楽しむことができる支援</b> 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望を聞き、入りたい時間に入浴してもらったり、お風呂が好きでない方には、言葉掛けの工夫やタイミングをつかむことで入浴できるよう支援している。	利用者との手作りおやつや外出支援等の調整を取りながら、午後に利用者の希望に沿った入浴支援を行っている。失禁時や体調等により入浴できない場合には、シャワー浴や部分洗浄、更衣等の支援をしている。入浴を拒む利用者には、声かけや、時間、同性介助等の工夫をし、気持ちに沿った支援をしている。	
46		<b>○安眠や休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の生活のペースで、日中もベッドで休む時間を設けたり、日中の活動に配慮している。睡眠剤を飲まれている方には、睡眠状態の記録をし把握に努めている。		
47		<b>○服薬支援</b> 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効能、副作用の説明書を職員全員が見られるようファイルにしている、薬の変更を業務日誌にて職員に申し送りしている。		
48		<b>○役割、楽しみごとの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で力を発揮してもらえよう、出来る仕事をお願いし、感謝の気持ちを伝えたり、歌を聞いたり、歌ったり、一人一人の楽しみ事を把握し支援している。		
49	(18)	<b>○日常的な外出支援</b> 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	命日にお墓参りの支援をしたり、馴染みの地域のミニデイサービスに参加したり、ふるさとの馴染みの場所訪問、ご家族との外出支援を行っている。	安静の必要のある利用者を除き、玄関前でおやつを食べたり、事業所のある敷地内の川辺を散歩したり、買い物やドライブ等希望に沿った外出支援を行っている。ふる里訪問や墓参りなどは、家族の協力も得ながら支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<b>○お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在自分でお金を所持している方はいない。		
51		<b>○電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自分から掛ける方はいないが、かかってきた電話を取り次ぎできるよう支援している。		
52	(19)	<b>○居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの飾りつけや家具の配置は、家庭的な雰囲気になるよう配慮している。季節を感じてもらえるよう、利用者さんたちで創作した物を飾ったりと工夫している。	共用空間は、床と壁の一部に木を使い、畳のコーナーに茶筆筒を置くなど家庭的な雰囲気を出している。壁面には利用者が共同作成した季節感のある作品を展示している。共用空間はどこも手入れが行き届き、開設後10年間慣れ親しんだ、利用者が過ごしやすい場所となっている。	
53		<b>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々にくつろげるよう、ソファの位置を工夫し、仲の良い方同士でおしゃべりし楽しく過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	<b>○居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や飾り物、仏壇等思い出の品が持ち込まれ、落ち着いて生活できるようご家族の方にも協力してもらっている。	居室にはそれぞれ使い慣れた整理筆筒、姫鏡台、置時計、テレビ、仏壇、家族写真等が持ち込まれており、自宅との差異を感じさせないよう物の配置に工夫がされている。	
55		<b>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者さんの身体状況に合わせ、手すりを設置したり、ベッドの位置の工夫により、自立した生活ができるよう職員全員で考えている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名: いちきち

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<b>○理念の共有と実践</b> 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会の時等に、理念について話し合い、具体的なケアについて統一できるようにしている。理念をプランに反映できるよう努めている。		
2	(2)	<b>○事業所と地域とのつきあい</b> 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の小学校の運動会を見に行ったり、市内の中学生が福祉体験に来てくれたりしている。納涼祭は、地域全体で盛り上げてくれ、地域のお祭りとして定着している。		
3		<b>○事業所の力を活かした地域貢献</b> 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材育成として、積極的にボランティアを受け入れ、中学生、福祉専門学生、看護専門学生の実習の受け入れもしている。利用者へのプライバシーについても配慮している。		
4	(3)	<b>○運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会にて、サービス評価の結果を報告し意見を聞き、改善点等相談しながらサービスの向上に努めている。		
5	(4)	<b>○市町村との連携</b> 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者の方との関係は良好で、相談に乗ってもらったり、アドバイスを受けたり協力してもらっている。市の担当者の方が行事(運動会)の応援に来てくれたりした。		
6	(5)	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会がある。身体拘束禁止の対象となる行為について定期的に職員会で話し合い、身体拘束をしないケアに努めている。		

7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加したり、職員会で定期的に勉強している。高齢者虐待防止法について事例を挙げながら理解や防止について話し合っている。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内で研修会を行い学ぶ機会を持っている。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をとり丁寧に説明している。利用料金、起こりうるリスク、医療連携体制の実際など説明している。入院の際、一度退居となった場合でも最優先に入居できることの説明をし安心してもらえるよう配慮している。		
10	(6)	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時等何でも言ってもらえるよう、職員の方から近況報告をしたり話しやすい環境を作るよう努めている。家族からの意見等はユニット会で話し合い、反映に努めている。家族会での意見や要望取り入れたケアに努めている。ご意見箱も置いている。		
11	(7)	<b>○運営に関する職員意見の反映</b> 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の時又は個別に一人一人が自分の意見を言えるような雰囲気作りに努めている。職員全員、活発に意見が言える。職員一人一人と管理者が話をする機会を設けている。		
12		<b>○就業環境の整備</b> 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修に参加する機会を設け向上心をもって働けるよう努めている。希望を聞き休みやすい環境を作ったりと配慮している。キャリアパスシステムにより資格取得の支援も行っている。		

13	<p><b>○職員を育てる取り組み</b></p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内研修、グループホーム内研修をしている。外部研修にも順番で参加できるよう配慮している。</p>		
14	<p><b>○同業者との交流を通じた向上</b></p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>市内に連絡会があり、検討会を開き、サービスの向上に努めている。グループホーム協会の研修にも参加し悩み等話し合う機会もある。</p>		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15	<p><b>○初期に築く本人との信頼関係</b></p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>サービス利用開始時に本人から思いや希望を聞いたり、サービス開始前に見学に来てもらったりと関係作りに努めている。</p>		
16	<p><b>○初期に築く家族等との信頼関係</b></p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居前にご家族より相談や要望を聞き、事業所としての対応等を説明し、安心してサービス利用ができるよう努めている。</p>		
17	<p><b>○初期対応の見極めと支援</b></p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入居の相談を受けた時、空室がなく即座に対応が困難な場合は、他のサービス利用を提案したり、居宅介護支援事業所との連携を取っている。</p>		
18	<p><b>○本人と共に過ごし支えあう関係</b></p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>支援する側、される側という意識を持たず、お互い支え合いながら生活していることを職員会でも話し、職員全員共通の認識としている。</p>		

19		<p><b>○本人を共に支えあう家族との関係</b></p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>ふるさと訪問をしたり、面会時、家族の方と過ごせる時間を大切にしている。近況報告も定期的に行ったりし面会が少ないご家族にも情報の提供をしている。</p>		
20	(8)	<p><b>○馴染みの人や場との関係継続の支援</b></p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>お墓参りや地域のミニデイサービスに参加したり、ふるさと訪問をしたり、できる限りの支援を行っている。</p>		
21		<p><b>○利用者同士の関係の支援</b></p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者同士の関わりも多いがトラブルも多い。職員が中を取り持ちながら、お互い支え合った生活ができている。それぞれうまのあった方と楽しく過ごす事ができるよう支援している。</p>		
22		<p><b>○関係を断ち切らない取組み</b></p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退居し病院に入院したご家族の相談に乗ったり、面会に行ったりしている。</p>		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	<p><b>○思いや意向の把握</b></p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の関わりの中で、真意を知る努力をし、家族やその方との関わりがあった方からの情報を得て個人対応している。</p>		
24		<p><b>○これまでの暮らしの把握</b></p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>故郷訪問で情報を得たり、家族、親戚、近所の方などの面会時、情報を得よう努めている。入居前に、入居以前に入居していた施設の方より情報をもらったりしている。</p>		

25		<p><b>○暮らしの現状の把握</b></p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>利用者一人一人の生活リズムを理解するよう努めている。些細な動作等から感じ取り対応できるよう努めている。</p>		
26	(10)	<p><b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b></p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>ご家族の方の希望や本人の生きがいにしている事等を考慮し、モニタリングし介護計画を立てている。</p>		
27		<p><b>○個別の記録と実践への反映</b></p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>利用者の状況の変化や対応等を個人ケースに記録し、申し送りノートや業務日誌にて職員間での情報の共有ができています。</p>		
28		<p><b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b></p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>本人、ご家族の状況に応じて希望を聞き、個々のニーズに対して柔軟に対応している。</p>		
29		<p><b>○地域資源との協働</b></p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>運営委員会に地区長さんや民生委員さんが参加してくれている。徘徊の方が行方不明になったことを想定し話し合いをしたり、警察、市役所の協力によりSOSネットワークにも登録している。</p>		
30	(11)	<p><b>○かかりつけ医の受診支援</b></p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>病院が近い事で入居を希望している方が多い為、医療機関を勧めているわけではないが、協力病院がかかりつけ医になっている、希望する病院に通院できるよう送迎介助している。</p>		



31		<p><b>○看護職との協働</b></p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護師を配置しており、常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。訪問看護、協力病院の看護師の協力を得ながら適切な診療を行っている。</p>		
32		<p><b>○入退院時の医療機関との協働</b></p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>2年間に入院はなかったが、日ごろより病院との連携は取れている。</p>		
33	(12)	<p><b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b></p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化の指針を作成し、同意をとっている。ご本人や家族の意向を踏まえ、医師、職員が連携をとりながら安心して納得した最期を迎えられるように、随時ご家族と話し合いながら取り組んでいる。</p>		
34		<p><b>○急変や事故発生時の備え</b></p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>定期的に緊急時対応の訓練を行っている。消防署の協力を得て、蘇生術の研修を全職員が受けている。</p>		
35	(13)	<p><b>○災害対策</b></p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>マニュアルを作成し、消防の協力を得て、火災、地震避難訓練を実施している。運営委員会でも災害時の協力を呼びかけ、地区長さんに訓練に参加してもらっている。近隣の施設との連携体制も整っており、合同の訓練も実施している。地区の消防団が水害時いち早く駆けつけてくれる。</p>		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	<p><b>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</b></p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>人前であからさまにトイレの声掛け等をしないように気を付けているが、利用者によっては言葉に出して誘わなければ伝わらない場合もあり、できるだけ配慮に努めている。排せつ介助時は必ず、カーテンと入口の戸を閉めるよう徹底している。</p>		

37		<p><b>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</b></p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>朝食、パンと米飯の希望を聞き選択してもらっている。水分補給の飲み物の希望を聞いたり、食べたいお菓子を選んでもらっている。見たい番組やDVDを聞き、希望に沿っている。</p>		
38		<p><b>○日々のその人らしい暮らし</b></p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>入浴や食事等その日の気分により、本人のペースや時間を大切にするよう努めている。</p>		
39		<p><b>○身だしなみやおしゃれの支援</b></p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>訪問の理容室を利用しているが、好みのヘアスタイルの希望を聞きカットしたり、帽子や衣類、その人らしさを保てるよう努めている。</p>		
40	(15)	<p><b>○食事を楽しむことのできる支援</b></p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>利用者と一緒に食卓を囲み会話しながら食事をしている。日々の食事の準備への参加はできていないが、芋のつるや山菜の下ごしらえ等を一緒にしている。</p>		
41		<p><b>○栄養摂取や水分確保の支援</b></p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>一人一人の体調と1日の摂取量の把握をしている。ご本人の好きな食べ物や食べやすいものを出すよう、何段階もの食事形態をとっている。</p>		
42		<p><b>○口腔内の清潔保持</b></p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>一人一人に合わせた声かけや介助の工夫をしている。</p>		
43	(16)	<p><b>○排泄の自立支援</b></p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>排泄チェック表を活用し、尿意のない利用者さんにも時間を見計らって誘導することでトイレでの排泄の維持に努めている。</p>		

44		<p><b>○便秘の予防と対応</b></p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>水分補給はゼリーにし摂取しやすい工夫したり、牛乳やきなこミルクを出したりと取り組んでいる。</p>		
45	(17)	<p><b>○入浴を楽しむことができる支援</b></p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている</p>	<p>希望を聞き入りたい時間に入浴してもらったり、お風呂が好きでない方には、言葉掛けの工夫やタイミングをつかむことで入浴できるよう支援している。</p>		
46		<p><b>○安眠や休息の支援</b></p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>その方の生活のペースで、日中もベッドで休む時間を設けたり、日中の活動に配慮している。睡眠剤を飲まれている方には、睡眠状態の記録をし把握に努めている。</p>		
47		<p><b>○服薬支援</b></p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>薬の効能、副作用の説明書を職員全員が見られるようファイルにしている、薬の変更を業務日誌にて職員に申し送りしている。</p>		
48		<p><b>○役割、楽しみごとの支援</b></p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>得意分野で力を発揮してもらえよう、できる仕事をお願いし、感謝の気持ちを伝えたり、歌を聞いたり、歌ったり、散歩等一人一人の楽しみ事を把握し支援している。</p>		
49	(18)	<p><b>○日常的な外出支援</b></p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>馴染みの地域のミニデイサービスに参加したり、ふるさとの馴染みの場所訪問、ご家族との外出支援を行っている。</p>		

50		<p><b>○お金の所持や使うことの支援</b></p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	現在自分でお金を所持している方はいない。		
51		<p><b>○電話や手紙の支援</b></p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	自分から掛ける方はいないし、かかってくる事もない。		
52	(19)	<p><b>○居心地のよい共用空間づくり</b></p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	フロアの飾りつけや家具の配置は、家庭的な雰囲気になるよう配慮している。季節を感じてもらえるよう、利用者さんたちで創作した物を飾ったりと工夫している。		
53		<p><b>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b></p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	個々にくつろげるよう、ソファの位置を工夫し、仲の良い方同士でおしゃべりし楽しく過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	<p><b>○居心地よく過ごせる居室の配慮</b></p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	家具や飾り物、仏壇等思い出の品が持ち込まれ、落ち着いて生活できるようご家族の方にも協力してもらっている。		
55		<p><b>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</b></p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	利用者さんの身体状況に合わせ手すりを設置したり、ベッドの位置の工夫により、自立した生活ができるよう職員全員で考えている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらい
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない